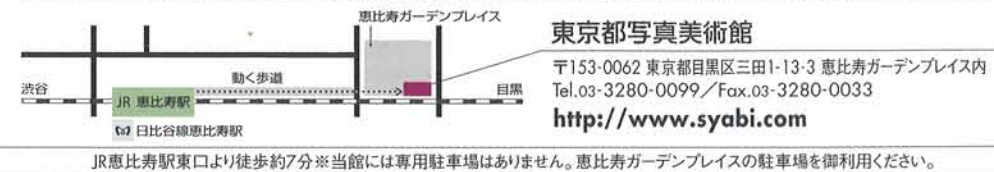


# SCHEDULE

東京都写真美術館 展覧会スケジュール

2005	3F展示室	2F展示室	B1F映像展示室	1Fホール
10	開館10周年特別企画展 「写真はもの見方を どのように変えてきたか」 第4部～混沌～ 9月17日(土)～11月6日(日)	東京都写真美術館 開館10周年特別企画展 恋よりどきどき: コンテンポラリーダンスの感覚 10月1日(土)～ 11月13日(日)	ローザと アンヌ・テレサ・ドゥ・ ケスマイケルの25年 10月1日(土)～ 10月30日(日)	about love 9/17(土)～10/28(金)
11	写真新世紀展2005 11月12日(土)～ 12月11日(日)	 横須賀功光の写真展「光と鬼」 11月19日(土)～12月18日(日)	 浪華写真倶楽部 「浪展」 11月19日(土)～ 12月11日(日)	 魅惑の影絵アニメーション ロッテ・ライニガーの世界 11月12日(土)～12月16日(金)
12		 写真展・岡本太郎の視線 12月24日(土)～2月18日(土)	日本写真家協会展 「日本の子ども60年ー 21,900日のドラマー」 12月17日(土)～ 1月9日(月・祝)	 ガラスの使徒 12月17日(土)～2月18日(土)
2006	開館10周年特別企画展 植田正治: 写真の作法 12月17日(土)～2月5日(日)		ベトナム統一 30周年記念写真展 「VIETNAMー戦争と民衆ー」 1月14日(土)～ 2月19日(日)	※このほかについての 詳しい情報は ホームページをご覧ください。
1	上野彦馬賞展 2月11日(金)～2月18日(土)			
2	文化庁メディア芸術祭 2月24日(金)～3月5日(日)			
3	開館10周年特別企画展 日本・世界の新進作家展 「写真はもの見方をどのように変えていくのか」(仮称) 3月11日(土)～4月23日(日)			

ご利用案内	●休館日: 毎週月曜日(休館日が祝日または振替休日の場合、その翌日)、年末年始(12/29～1/1) ●開館時間: 10:00～18:00(木・金は20:00まで) 入館は閉館の30分前まで
年始特別開館 1月2日より開館	2006年1月2日(月)～4日(水) 開館時間/11:00～18:00(入館は閉館の30分前まで)
割引チケットの販売	お得な割引料金で2会場以上を自由に組み合わせてご覧いただける割引チケットを販売しております。 詳しくはチケット売り場でおたずねください。



※本誌掲載ページに掲載されている観覧料および商品の価格は、原則として消費税込みの価格です。  
東京都写真美術館ニュース「アイズ05」48号 ●発行日:2005年10月17日/企画・編集:東京都写真美術館事業企画課 普及係 ●印刷・製本: JTB印刷株式会社 ●発行:財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 ©2005 ●本誌掲載の記事、写真の無断複写、複製を禁じます。



TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY NEWS MAGAZINE

**eyes** 2005 Vol.48  
東京都写真美術館ニュース「アイズ」

48





TOPICS  
eyes Vol.48

東京都写真美術館開館10周年記念特別企画展  
**植田正治：写真の作法**  
～僕たちはいつも植田正治が必要なんだ!～

**山陰に生まれ、生涯を通して山陰で写真を撮り続けた写真家・植田正治。写真のすべてを楽しむことに徹した約70年の軌跡とは？**

日本を代表する写真家の一人であり、当館の重点収集作家でもある植田正治は1913年に鳥取県境港で生まれました。学生時代には画家を志すも、両親から猛反対され断念。“その代わりに”と父親から貰ったカメラに没頭し、写真の楽しさに目覚めていきました。

19歳の頃、地元境港に写真館を開業させた植田は、その一方で作品撮影に没頭していきます。山陰を愛し、地元の人々をモデルにした彼の作品は実に独特。広大な砂丘を舞台に被写体をオブジェのように配置するなど、斬新で遊び心とユーモアに満ちた自由で多彩な表現は「植田調 (UEDA-CHO)」と称され、国際的にも高く評価されています。

しかし、世界的に評価されつつも、植田は自らを「アマチュア写真家」と称しました。“写真に対して何事にも囚われることなく常に自由な立場で撮影



\*2

したい”という精神は、単に作品を残すということだけではなく、写真に関わるすべてを通じて“写真で遊ぶ”ことでもありました。彼にとって写真というのは何者にも変えがたい表現方法であり、そして人やものと対話する楽しみでもあり、それ以上に生き方そのものとも言えます。植田正治の代表的な作品に「砂丘シリーズ」や「童暦」があります。“ローカルカラー”と呼ばれたこの表現は、いわゆる報道写真的なジャーナリストの目ではなく、また純粋な芸術を求めていくアバンギャルドな芸術家の目でもなく、その地方の風土に根ざして生きていく人たちが現実をしっかりと見つめていこうとする視線でした。その中で、植田は常に“写真で遊ぶ”感覚を忘れました。

植田は著書「私の写真作法」(2005年/阪急コミュニケーションズ)の中でこう語っています。

「ファインダーというのはピントを合わせることや、瞬時に対象をとらえるための小窓としてだけでなく、自らの心の世界を展開する目として使うことができたら、また新しい世界が生まれることもあるのではないか」

植田にとってファインダーとは心の窓であったのかもしれない。その心の窓を通し、あくまでも被写体に対し



\*3

て自然体で向き合い続けた彼の作品にはあえて正面から捉えたカメラ視線のものが数多くあります。人為的と捉えがちな撮影方法ですが、これはカメラを意識せずに撮ることが自然だと考えるリアリズム写真に対して“カメラを向けられているのに視線をそらす事のほうが不自然”という考え方の表れでもありました。つまり、写真家はカメラを持ってそこに立つという行為によって、すでに現実を変えてしまっているのです。植田はそれをしっかりと認識し、相手との関わりを通じて被写体をカメラに収めていきました。だからこそ、彼の作品からは“写真する僕”の存在が感じられるのでしょう。

1950年代、日本の写真表現に対して“絶対非演出の絶対スナップ”というスローガンを掲げ、写真界にリアリズム旋風を巻き起こした土門拳は、講演会のために山陰を訪れた際、「あなたの写真はとてもいい。あなたはずっとこのやり方でいべきだ」と、植田の演出写真を認めたといえます。アプローチは違えども、写真に対する姿勢や思いは同じ。土門拳にはそれが見えていたのではないのでしょうか。

いつの時代にも「写真する」楽しみ方を教えてくれた植田正治。本展は没後初めての回顧展として約70年にわたる作家活動の軌跡を一望し、その表現の独自性を探ろうとするものです。約200点の作品と資料を通じて、植田の「写真」や「被写体」に対する作法を覗いてみませんか？



\*4

表紙 シリーズ「砂丘」より1950年代

\*1 「作られた夜」1989年

\*2 「裏街」1935年

\*3 シリーズ「童暦」より1955～1970年

\*4 シリーズ「童暦」より1955～1970年

※\*1は鳥取県伯耆町立植田正治写真美術館蔵  
表紙、2～4および次ページ図版は東京都写真美術館蔵



3F

3階展示室  
Exhibition Gallery

友の会  
無料

三越カード  
割引

アトレカード  
割引

2005年12月17日(土) → 2006年2月5日(日)

東京都写真美術館開館10周年記念特別企画展  
**植田正治：写真の作法**  
～僕たちはいつも植田正治が必要なんだ!～

年始  
特別開館  
1月2日より開館

- 一般 500(400)円 ○学生 400(320)円
- 中高生・65歳以上 250(200)円

( )は20名以上の団体  
※小学生以下および障害をお持ちの方とその介護者は無料  
※第3水曜日は65歳以上無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料

- 主催：東京都／東京都写真美術館
- 特別協力：鳥取県伯耆町立植田正治写真美術館
- 協賛：フォト・ギャラリー・インターナショナル
- 東京都写真美術館開館10周年特別協賛：キヤノン株式会社／サッポロホールディングス株式会社／株式会社資生堂／株式会社写真弘社／ソニー株式会社／大日本印刷株式会社／凸版印刷株式会社／株式会社日本発色／富士フイルムイメージング株式会社／株式会社リコー

HP 詳細ホームページ：http://www.syabi.com/schedule/schedule.html



「パパとママと子どもたち」1949年

東京都写真美術館では、毎年開催して参りました重点収集作家個展の一環として、植田正治の活動を振り返る写真展を開催いたします。鳥取県に生まれた植田正治は、1930年代から晩年に至るまで、モダンな感覚にあふれた独特な表現をもって、日本の写真界でユニークな活動を展開するだけでなく、ヨーロッパやアメリカにおいても高い評価を受けてまいりました。本展は植田正治の没後、日本初の回顧展となります。戦前期の作品「裏町」から1950年代を代表する「砂丘」シリーズや「童暦」シリーズ、そして1970年代、再評価の機運の中で撮影された「小さい伝記」や「風景の光景」など、「植田調(UEDA-CHO)」と称された代表的な作品群に加え、ヨーロッパ取材時の作品やカラー写真による「静物」シリーズなども紹介し、初期から晩年に至るまでの植田正治の写真世界を一望しながら、その表現の独自性を探ります。植田正治という稀有な才能によって切り開かれた、私たちが思いもよらない「写真」の面白くも豊かな世界。それは常に“写真する”ことの楽しさを追求し続けた写真家としての軌跡であり、私たちに投げかけるメッセージでもあるのではないのでしょうか。

東京都写真美術館開館10周年記念特別企画展

**恋よりどきどき**

コンテンポラリーダンスの感覚  
10月1日(土)・11月13日(日)

観覧料：一般800(640)円／学生700(560)円／中高生・65歳以上600(480)円  
※( )内は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会

友の会  
割引

2F  
展示室  
Exhibition  
Gallery

【**展覧会**】  
インスタレーション

世界から注目される日本のコンテンポラリーダンス。いま人気の3つのカンパニーが、東京都写真美術館でどきどきする展覧会を開催します。展示室にはカンパニーが企画・制作した新作インスタレーションが展示され、あなたの感覚(アイステーション)を刺激します。

●**コンドルズ**(近藤良平ほか)



「JUPITER」2005年©HARU

●**ニブロール**



「ドライフラワー」2004年©Nobutaka Sato

●**珍しいキノコ舞踏団**(伊藤千枝ほか)



「FLOWER PICKING」2004年©Strange Kinoko Dance co.

※eyes47号でお知らせした展示内容から一部変更がございました。予めご了承ください。

関連イベントも多数開催いたします。是非ご参加ください。

フォーラム+特別上映

11/2  
1Fホール  
**ピナ・パウシュ  
ヴッパタル舞踊団**  
＜天地＞取材ドキュメンタリー上映

制作：ヴッパタル舞踊団 協力：日本文化財団

11/2(水)  
10:00～/14:00～/18:00～  
1Fホール

無料 要「恋どき展」半券



2004年、ピナ・パウシュ ヴッパタル舞踊団が日本をテーマにした作品＜天地＞を彩の国さいたま芸術劇場で上演しました。1986年の初来日以来9回の来日経験と、2003年の日本各地の取材を通して制作した近年の最大傑作＜天地＞。2003年取材時のドキュメンタリー映像を初公開します。

11/8-11  
1Fホール  
**ダムタイプ**  
(S/N)1995年 上映

11/8(火)～11/11(金) 1日5回上映  
1階ホール 各回定員190名(先着順)

有料 当日券のみ ¥1000

「恋どき展」半券で割引

故古橋健二の強烈な個性、パフォーマーの多彩な動き、流れ飛ぶ映像と刻まれるテキスト、その中で表現されるセクシャリティ、生と死の問題等、あまりにも多層な構造ゆえ、今もなお強烈な「記憶」として生き続けている(S/N)。古橋健二没後10年経ったいま、(S/N)の映像、テキスト等を上演時間のまま再編集し、見つめ直します。フォーラム10/30(日)開催。

ダンスウィーク

11/3-4  
B1展示室  
**黒沢美香**  
「ロマンチックナイト in 写真」  
11/3(木・祝) 14:30/19:00 定員150名(先着順)  
11/4(金) 19:00 定員150名(先着順)

有料 チケットぴあ/イープラス 前売¥3000(当日¥3500)  
Pコード 364-299

11/6-8  
B1展示室  
**珍しいキノコ舞踏団**  
「珍しいキノコ舞踏会～シャルウィダンス?」  
11/6(日) 20:00 定員150名(先着順)  
11/8(火) 20:00 定員150名(先着順)

有料 チケットぴあ/イープラス 前売¥3000(当日¥3500)  
Pコード 364-299

11/12-13  
B1展示室  
**白井剛**  
「質量、slide、& / syabi . 罫 . underground」  
11/12(土) 19:00 定員150名(先着順)  
11/13(日) 14:30/19:00 定員150名(先着順)

有料 チケットぴあ/イープラス 前売¥3000(当日¥3500)  
Pコード 364-299

有料 チケットぴあ/イープラスについて

このイベントチケットはチケットぴあ、イープラスのみでの取扱いとなっております。好評発売中 全席自由(整理番号付)  
チケットぴあ=TEL0570-02-9966 イープラス=eec.plus.co.jp  
※各公演の開場は30分前。館内の飲食、喫煙はできません。

同時開催 一般1,000円 学生800円 中高生・65歳以上600円

**Rosas XXV** 2005  
ダンス、空間、そして音楽の軌跡  
ローザスとアンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケルの25年  
10月1日(土)・10月30日(日) 地下1階映像展示室



2F

2階展示室  
Exhibition Gallery

友の会  
割引

三越カード  
割引

アトレカード  
割引

2005年11月19日(土) → 12月18日(日)

## 横須賀功光の写真魔術「光と鬼」

○一般 800(640)円 ○学生 700(540)円  
○中高生・65歳以上 600(480)円

( )は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会、上記カード会員割引料金  
※小学生以下および障害をお持ちの方とその介護者は無料  
※第3水曜日は65歳以上無料

○主催：横須賀功光の写真魔術「光と鬼」実行委員会  
○共催：東京都写真美術館／朝日新聞社  
○後援：社団法人日本写真協会／社団法人日本写真家協会／社団法人日本広告写真家協会  
○特別協賛：凸版印刷株式会社  
○協賛：株式会社光邦／株式会社資生堂／ニコン株式会社／ニコン販売株式会社  
富士写真フイルムイメージング株式会社 他  
○協力：登屋GROUP／株式会社写真弘社／トリバインテレーティング株式会社／株式会社バルコ／株式会社PGL／財団法人三宅一生活デザイン文化団 他

HP 詳細ホームページ：http://www.syabi.com/schedule/schedule.html

東京都写真美術館では2003年1月14日に65歳の若さで急逝した横須賀功光の写真展を開催いたします。広告写真の窮児として、数々の優れた広告作品を残した横須賀は日本大学写真学科在学中から、資生堂の社内報「ハウスオーガン」の仕事に就き、現代的、かつ斬新な広告表現で注目を浴びました。1960年卒業と同時にフリーランスとして活動を始め、その後、40年余りにわたって広告写真界のリーダー的存在として活躍し、海外でも高く評価されました。また、広告写真家とは別に写真作家としても意欲的に活動を行い、60年代には「モード・イン」「黒」「射」「壺」「壁」を、80年代には「小夜子」「月」「光銀事件」を、続いて90年代には「エロスの部屋」「時間の庭」「光学異性体」を発表しています。

今回の横須賀功光の写真魔術「光と鬼」では、常に写真表現の可能性を追求し、あらゆる撮影技法とプリント技術を駆使した芸術性の高いオリジナルプリントをお楽しみください。



「月」小夜子／山海塾 1986年

◎お問い合わせ：横須賀功光の写真魔術「光と鬼」広報事務局 03-5485-9335 (メディアネット・クルー内)

2F

2階展示室  
Exhibition Gallery

友の会  
割引

三越カード  
割引

アトレカード  
割引

2005年12月24日(土) → 2006年2月18日(日)

## 東京都写真美術館開館10周年記念特別企画展 写真展・岡本太郎の視線

年始  
特別開館  
1月2日より開館

○一般 1000(800)円 ○学生 800(640)円  
○中高生・65歳以上 600(480)円

( )は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会、上記カード会員割引料金  
※小学生以下および障害をお持ちの方とその介護者は無料  
※第3水曜日は65歳以上無料

○主催：(財)東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／読売新聞東京本社／美術館連絡協議会  
○協力：岡本太郎記念館／川崎市岡本太郎美術館  
○協賛：花王株式会社

HP 詳細ホームページ：http://www.syabi.com/schedule/schedule.html

### 「写真は生活そのもの、人間自体に迫るための 媒体であるという使い方が望ましい」

(岡本太郎「写真収集の趣旨」『世界の支える無名の人びと』1970年／日本万国博覧会協会より)

東京都写真美術館では総合開館10周年を迎えた平成17年の締めくくりとして、「写真展・岡本太郎の視線」を開催いたします。「昭和」「高度経済成長」「爆発」と、さまざまな言葉と結びつき、現代の人々へ強い精神的影響を与える芸術家・岡本太郎。彼は1930年代のバリ滞在中にブラッサイヤマン・レイなど多くの写真家と交流し、帰国後も土門拳、渡辺義雄ら写真家たちと友人でも素人でもない立場から対談や批評を繰り返し広げました。また、1950年代から60年代の日本列島取材し、時に原初的で野太く、あるいは現代も構築し続けるべき「伝統」として日本と日本人の姿を写真に収め、文章を添えて発表。21世紀の現在、これらの写真が再び注目を集めています。

本展は拡大されたフィルム(スリプ)から岡本が捉えた視線、雑誌や著作へ発表された言説から、岡本太郎と写真の関係をつまびらかにする試みです。



福村隆正「玉川のアトリエに於ける岡本太郎氏」1947年



# 写真展 岡本太郎の視線



HP 詳細ホームページ <http://www.syabi.com/schedule/schedule.html>

幸いなことにカメラがあった。私たちは彼の見たもの、その視線、対象そのものをいま、追いかけて見ることができる。(岡本敏子)

大阪万博の「太陽の塔」や「芸術は爆発だ」の言葉で知られる岡本太郎。1996年に亡くなるまでの間、彼が残した作品は彫刻、陶芸、書物など多岐に渡っており、その幅広い才能に圧巻させられるばかりです。

しかし、その岡本が写真を撮影し、文章に添えて発表したり、多くのフィルムを残していたことは、最近まであまり多くの人に知られていませんでした。

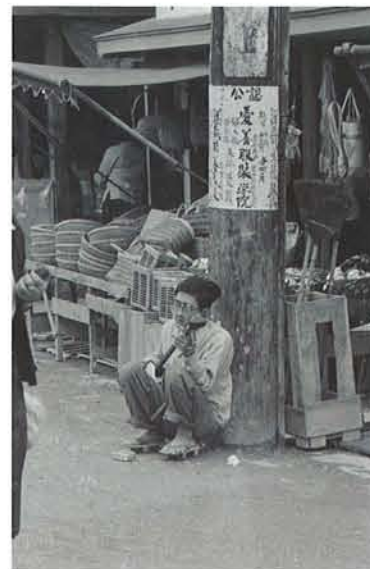
岡本太郎と写真との出会いは1930年代に遡ります。当時、岡本が滞在中のバリで交流を深めていた人物にはロバート・キャバやブラッサイ、マン・レイなどそうそうたる名が挙げられますが、彼らから受けた影響によって、岡本はそれまで観賞用としか捉えていなかったカメラが“考えていることを表現し、伝えるツール”であるということに気づかされたというのは考えすぎでしょうか。



\*2

その後、帰国した岡本はしばらくの間、日本文化に対してやりきれない嫌悪感を抱えつつ生活をしていました。ところが、偶然訪れた東京国立博物館で縄文土器を見つけた瞬間、彼の体に電撃が走りました。生命の息吹、人間性の根源にすっかり魅せられた岡本は、東京大学の研究室で写真におさめたのです。「縄文土器論」は1952年の「みつゑ」に発表され、一大センセーションを起こします。実はこの時、編集部では岡本の写真ではなく、プロの写真家に撮影を依頼したといいます。しかし、それは全体のトーンがきれいでバランスの取れた、いわゆる美術品をより美しく見せる写真。彼が伝えたかったのは、研究室での日常覚えた感動です。生の視線を伝えたかったのでしょう。単行本『日本の伝統』(1958年/新潮社)に収められた時、自らの写真を使っています。

「土地々々を廻り、実際に即して、こういう可能性、問題性があるということをつかみ出し、われわれ自身につきつける。たとえどんなに惨めであり、未熟であっても、まずあるがまま捉え、そこから問題を発展させて行くことだ。いや、未熟だからこそ、チャンスなのだ。それは豊かに、ほぼ笑ましく問題を投げかけて来ている。未熟ならば、だからこそ、ほとんどそれを誇っていい。そういう人間としての誇り、自覚、



\*3



\*4

つまり、生甲斐をもつて、遅しく人間が息をし、生活する場所には、どこでも第一級の芸術があり得る。」(『芸術風土記 日本の風土』『芸術新潮』(1957.11)より)

この時、日本の伝統や文化を掘り下げていくツールとして岡本とカメラの関係が構築されていき、それが最初に結実したものが「日本再発見—芸術風土記」(1957年『芸術新潮』連載)でした。秋田から始まり、長崎、京都、大阪、岩手など、日本列島の風景や風俗をルポルタージュするこの連載で、岡本は現代日本のありのままの姿に出会い、その驚きや感動を一瞬、一瞬、レンズという目で捉え、意図的ではない、偶然を大切に、しかしのめり込むようにシャッターを切りました。

当時、取材に同行していた岡本敏子さんはこう語りました。「幸いなことにカメラがあった。私たちは彼の見たもの、その視線、対象そのものをいま、追いかけて見ることができる」(『岡本太郎の沖縄』日本放送出版協会/2000年7月より)それまでの写真という概念に“対象を理解するため”という新たな可能性を見出した岡本太郎。玄人でも素人でもない立場であった彼の作品や発言は、写真界においても一石を投じました。

本展では岡本太郎自身が発表した写真の展覧はもちろん、フィルム(スリーブ)から当時の岡本太郎の“視線”を再現し、スピード感などを体験するほか、彼に関わった西欧写真家の作品や戦後日本の写真にまつわる岡本の言説を通して、岡本太郎と写真の関わりを探る試みです。あなたも岡本太郎の視線を体験してみませんか?

\*1 「久高のろ」(『忘れられた日本(沖縄文化論)』1961年刊より)

\*2 「なまはげ(男鹿半島にて)」(『芸術新潮』1957年4月号より)

\*3 「那覇の街頭にて」(『忘れられた日本(沖縄文化論)』1961年刊より)

\*4 「聖福寺(築地にはめこまれた鬼瓦)」(『芸術新潮』1957年5月号より)



3F

3階展示室  
Exhibition Gallery

2005年11月12日(土) → 12月11日(日)

New Cosmos Of Photography Exhibition 2005  
**写真新世紀展2005**

○入場無料

○主催：キヤノン株式会社  
○共催：東京都写真美術館

HP 詳細ホームページ：<http://web.canon.jp/newcosmos/>



新垣尚香「TSURU」



小澤亜希子  
「A DAY [Women of 30years]」



作品を審査する審査員各氏 (2005年)

キヤノンの文化支援活動の一環として行っている「写真新世紀」は新人写真家の発掘・育成・支援を目的に今年で14年目を迎えました。これまでに国内外で活躍するオノデラユキや佐藤正史など多数の写真家を輩出し、いまや新人写真家の登竜門としても認知度が高い公募展です。今年の公募審査会には1,324名、37,604点の応募作品が寄せられ、荒木経惟氏、飯沢耕太郎氏、南條史生氏、森山大道氏らレギュラー審査員とゲスト審査員のウィリアム・エグルストン氏、蛭川実花氏が審査を行いました。本展ではそこ

で選出された6組7名の優秀賞受賞作品を紹介いたします。また、同会場内には2004年度準グランプリ受賞者である川村泰代、溝口浩史の2人展も開催。バラエティ溢れるフレッシュで力強い作品の数々をご覧ください。

○お問い合わせ：キヤノン株式会社 イベント推進課 写真新世紀 03-5482-3904

2005年度年間グランプリ公開審査会&グランプリセレモニー

優秀賞受賞6組7名の中から、グランプリ1名を選出する公開審査会が行われます。公開審査会では、出展者6組7名の作家による作品プレゼンテーションを始め、審査員の先生方の生の写真論に触れる交流の場となることでしょう。

■日時：12月7日(水) 17:00~20:30(公開審査会) ※審査会終了後、セレモニーがあります

○公開審査会お問い合わせ：03-5482-3904

※電話予約の上、先着150名の方がご覧になれます。(一般の方もご参加になれます)

B1F

地下1階映像展示室  
Images & Technology Gallery

友の会割引

2005年11月19日(土) → 12月11日(日)

浪華写真倶楽部  
創立100周年記念 [1904 - 2004]  
**「浪展」**

○一般 500(400)円 ○学生 400(320)円  
○中高生・65歳以上 250(200)円  
( )は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会



津田洋甫「還らざる原生林 - 大台ヶ原」2004年

○主催：浪華写真倶楽部創立100周年記念展実行委員会  
○後援：社団法人日本写真協会/社団法人日本写真家協会/日本写真芸術学会  
○協賛：大阪梅田ツカモトカメラ/コニカミルタ株式会社/近士写真製版株式会社/  
株式会社写真弘社/ニコンカメラ販売株式会社/ニューカラー写真印刷株式会社/  
富士フィルムイメージテック株式会社/富士フィルムイメージング株式会社/  
光村推古書院株式会社/株式会社ラボネットワーク

昨年で創立100周年を迎えた浪華写真倶楽部は、明治37年1月に大阪で結成され、今日まで連続と続く現存する日本最古の写真団体です。戦前の日本の写真芸術を推進した有力なアマチュア写真団体のなかでも、東京写真研究会と日本を二分する一大勢力であり、福森白洋・安井仲治、小石清等の多彩な顔ぶれの作家を輩出してきました。結成の翌年から始まった写真展は「浪展」と称され、同時代の写真表現をリードする独自の作品が続々と発表され、それは会員間のみならず、全国的にも大きな影響を与えてきました。その活発な活動と発展ははぐくんだ自由なパイオニア精神は「一人一党」主義の伝統として現在に受け継がれています。本展では、現会員による現代編と1910年代から1960年代の会員作品による歴史編の2部構成で浪華写真倶楽部100年の歴史をひも解いてゆきます。

B1F

地下1階映像展示室  
Images & Technology Gallery

友の会割引

2005年12月17日(土) → 2006年1月9日(日)

日本写真家協会企画展  
**「日本の子ども 60年 —21,900日のドラマ—」**

年始  
特別開館  
1月2日より開館

○一般 700(560)円 ○学生 600(480)円 ○中高生・65歳以上 400(320)円  
( )は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会  
○主催：社団法人日本写真家協会 ○後援：文化庁



佐伯義勝 1951年

“子どもの姿に時代が写る” 社団法人日本写真家協会は戦後60年を写真で物語る「日本の子ども60年—21,900日のドラマ—展」を開催します。昭和20年8月6日、広島で被爆した子どもたちの写真から始まり、焦土と化した都会では大人も子どもも衣食住に事欠くどん底生活にあえいでいました。街には戦災孤児、栄養失調の子たちが溢れ、貧困の中から力強く生きることに子どもたちも懸命でした。そして日本人は焼け跡から立ち上がり、経済成長へと歩み出します。しかし経済優先の社会に公害や環境破壊が問題となります。その後バブル経済へと一気に進み、バブル崩壊、混沌の時代を迎えています。戦後間もなくの木村伊兵衛や土門拳、林忠彦から田沼武能、篠山紀信、荒木経惟など現代に至る写真家約140名がとらえた200点余の作品で構成し、戦後日本が歩んできた実像を写し出しています。いわば写真が社会を映すきわめて克明な鏡であることを物語っています。本展開催中、作家の重松清氏による講演会や、子どもたちに「写真が語る戦後60年」をやさしく解説するキッズ・フォトレクチャーを催します。

○お問い合わせ：日本写真家協会 03-3265-7451



B1F

地下1階展示室  
Images & Technology Gallery

友の会  
割引

2006年1月14日(土) → 2月19日(日)

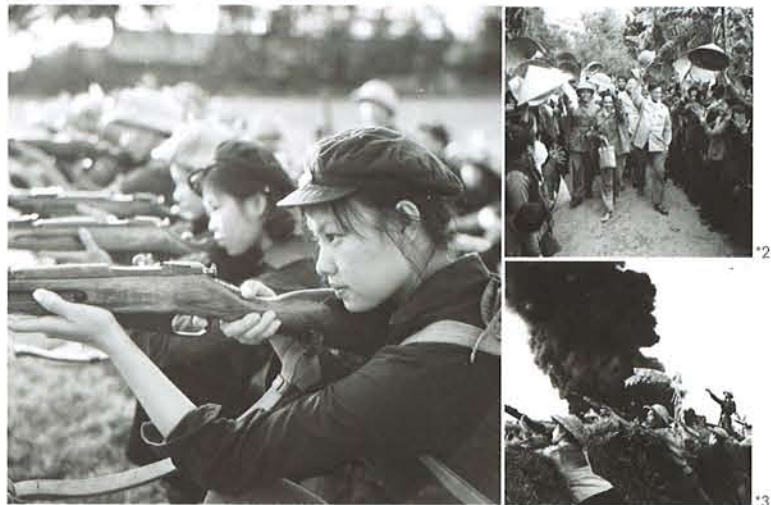
ベトナム統一30周年記念写真展  
**VIET NAM—戦争と民衆—**

- 一般 800(640)円 ○学生 700(560)円
- 中高生・65歳以上 500(400)円

( )は20名以上の団体および東京写真美術館友の会  
※小学生以下および障害をお持ちの方とその介護者は無料  
※第3水曜日は65歳以上無料

- 主催：朝日新聞社/東京都写真美術館
- 後援：社団法人日本写真協会/社団法人日本写真家協会/ベトナム大使館
- 協賛：富士写真フイルム株式会社
- 協力：国営ベトナム通信(VNA)、ベトナム人写真家・HOA MAI氏

HP 詳細ホームページ：http://www.syabi.com/schedule/schedule.html



ベトナム戦争が終結し30年が経過しました。しかし、いまなおその激しさと悲惨さは人々の記憶に鮮明に残されています。特に報道写真においては、数々の名作が残されましたが、それらは多くのカメラマンの犠牲の上に成り立った遺産でもあります。今回の展覧会では、今まであまり紹介されることのなかった、珍しい北ベトナム側の写真家が撮った写真を多数発掘し、展示します。そこには激しい戦場の陰で営まれる民衆の生活ぶりや、戦争とその場に立ち会わざるを得なかった人々の姿が描写され、亡くなった北ベトナム側のカメラマン200人の思いも感じさせます。西側の写真の中からは日本人やアジア人の代表的写真家の作品を展示。北側と南側の両面からベトナム戦争の現実を浮き彫りにし、歴史的な戦争を複合的な目で展覧する画期的な写真展です。

\*1 労働者や農民も有事には銃をとる。ハノイの工業地帯で射撃の練習をする女工さんたち(1967年)北ベトナム(撮影・Mai Nam)  
\*2 地域の人たちに見送られてベトナム軍に入隊する若者たち(1966年)北ベトナム・ハナム省で(撮影・Mai Nam)  
\*3 小銃で空爆の米軍機に立ち向かう北ベトナムの女性民兵。後方に打ち落とされた米軍機の黒煙が上がっている。(1972年)北ベトナム(撮影・Mai Nam)

◎お問い合わせ：朝日新聞社文化事業部 03-5540-7450

ZOOM UP!  
写美

開館10周年特別企画展  
「写真はものの見方をどのように変えてきたか」(2005年4月2日～11月6日) 3F展示室にて開催  
関連書籍も好評発売中です。 www.syabi.com

TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY

開館10周年特別企画「写真はものの見方をどのように変えてきたか」展開催にあわせて出版された、とんぼの本「写真の歴史入門」シリーズも、とうとう完結編である第4部「混沌」が発売となりました。このシリーズは、それぞれ展覧会に出品された収蔵作品約100点と、第1部～第4部の各展覧会担当学芸員による書き下ろしの著作です。写真を愛するお客様や関係者の皆さまの日々の叱咤激励のもと、徹夜の連続で書き上げた学芸員たちの個性もしっかりと出ています。どなたにでも写真の歴史をわかりやすくご理解いただける内容となっていますので、4冊を読みくらべて、それぞれの写真に対する思いを受け止めていただければ、担当編集者として、これほどうれしいことはありません。

新潮社 出版企画部 大久保信久

東京都写真美術館監修  
『写真の歴史入門』

- 第1部「誕生」(著者:三井 圭司)
- 第2部「創造」(著者:藤村 里美)
- 第3部「再生」(著者:鈴木 佳子)
- 第4部「混沌」(著者:中村 浩美)

展覧会総合企画・編集協力：金子隆一 編集・撮影協力：関次和子  
新潮社刊 いずれも1,470円(税込)



1F ミュージアムショップ『ナディッフ バイテン』

NADIFF X10  
www.syabi.com/shop/shop.html

◎お問い合わせ:  
「ナディッフ バイテン」  
直通 03-3280-3279

Calender



今年も素敵なカレンダーが入荷しました。メタリックに輝く世界地図のカレンダーや、蓄光タイプの月面カレンダーなど、存在感十分で部屋の雰囲気もガラリと変わりそうです。数に限りがありますのでお早めどうぞ!

月面図カレンダー ¥2,625(税込)

1・2F カフェ『シャンブル クレール〜明るい部屋〜』

chambre claire  
www.syabi.com/cafe/cafe\_01.html

◎お問い合わせ:カフェ  
「シャンブル クレール」  
直通 03-5798-2218



Beer

モアネット・ブラウン  
ローストした大麦麦芽の香りが特徴の香ばしいビールです。秋の夜長にいかがでしょうか?

750ml ¥1,800(税込)



1F

1階ホール

Hall Cinema information

友の会  
割引

三越カード  
割引

アトレカード  
割引

東京都写真美術館で観る映画シリーズ

HP 詳細ホームページ: <http://www.syabi.com/schedule/schedule.html>

写真美術館で観る映画シリーズ Vol.19

時を越え、永遠に輝き続ける光と影の伝説

魅惑の影絵アニメーション

ロッテ・ライニガーの世界



世界中の作家に多大なる影響を与えた影絵アニメーション作家、ロッテ・ライニガー。美しくも幻想的な作品の数々を残した彼女の処女作「アクメッド王子の冒険」と珠玉の短編傑作を上映いたします。同作品は世界初の長編アニメーションというだけでなく、その芸術的かつ娯楽的な質の高さで、数十年にわたって世界中の多くのアーティストに影響を与え、映画史にとって極めて重要な作品となりました。今回はその偉大な遺産が35ミリ修復&サウンド版ニュープリントで蘇ります。時を越え、永遠に輝き続ける光と影の伝説をお楽しみください。

- ◆上映スケジュール:11月12日(土)~12月16日(金)
- ◆休館日:月曜日(休日の場合は翌日)および12/10、12/11
- ◆上映時間:11:00/1:00/3:00/5:00/7:00
- ◆料金:<当日券>一般 1,500円/学生 1,300円/中学生以下・シニア(60歳以上) 1,000円 <前売券>一般 1,300円/中学生以下 800円

詳細ホームページ

<http://www.reiniger-world.com/>

◆お問い合わせ:エデン/03-5738-5704

写真美術館で観る映画シリーズ Vol.20

伝説のレンズ職人とガラスの精のおとぎ話

人生は光り輝く

ガラスの使徒

監督/金守珍 原作・脚本/唐十郎



アングラ演劇界のカリスマ・唐十郎が原作、脚本、出演の一人三役をこなした話題作を公開いたします。大ヒット曲“地上の星”の世界観に深く共感し、世間から取り残されようとしている不器用な人間たちの人生模様を大人のメルヘンとして描いた感動作。主演に舞台『世界の中心で愛をさけぶ』の垂紀役で絶賛された佐藤めぐみ、劇団唐組の稲荷卓史が熱演するほか、山田純大、余貴美子、六平直政、石橋蓮司、佐野史郎、原田芳雄といった個性派俳優ががちりと脇を固めます。エンディングテーマを歌う中島みゆきが出演しているのも見ものです。

- ◆上映スケジュール:2005年12月17日(土)~2006年2月18日(土) 1/2(月)~1/4(水)は年始特別開館
- ◆休館日:月曜日(休日の場合は翌日)※12/26~1/1は休映
- ◆上映時間:通常...10:30/13:10/15:50/18:30 1/2~1/4...11:20/13:40/16:00
- ◆料金:一般 1,800円/学生 1,500円/中学生以下・シニア(60歳以上) 1,000円

詳細ホームページ <http://www.garasunotukai.com>

◆お問い合わせ:プログレッシブピクチャーズ 03-5460-5295

維持  
会  
員

Membership

東京都写真美術館の活動をご支援いただくため、次の企業・団体に維持会員としてご入会いただきました。

※詳しくはHPをご覧ください。 <http://www.syabi.com/membership/membership.html>

- 特別維持会員  
キヤノン株式会社  
株式会社資生堂  
東京電力株式会社  
凸版印刷株式会社  
株式会社リコー
- 維持会員  
株式会社アサツディ・ケイ  
旭化成株式会社  
朝日新聞社  
朝日生命保険相互会社  
アサヒビール株式会社  
朝日放送株式会社  
アップルコンピュータ株式会社  
アデコ株式会社  
エスエス製薬株式会社  
株式会社NHKエンタープライズ  
NTTコミュニケーションズ株式会社  
株式会社NTTデータ  
株式会社NTTドコモ  
NTT都市開発株式会社  
エルメスジャパン株式会社  
株式会社大塚商会  
株式会社大林組  
奥村印刷株式会社  
オムロン株式会社  
オリックス株式会社  
オリンパス株式会社  
株式会社オンワード樺山  
科研製薬株式会社  
カオ計算機株式会社  
鹿島建設株式会社  
株式会社角川書店  
カトーレック株式会社  
カルピス株式会社  
キョコマン株式会社  
株式会社紀伊國屋書店  
キヤノン販売株式会社  
共同印刷株式会社  
社団法人共同通信社
- 協和醸造工業株式会社  
キリンビール株式会社  
株式会社講談社  
株式会社光文社  
株式会社コーセー  
コダック株式会社  
コニカミノルタホールディングス株式会社  
株式会社コングレ  
株式会社ザ・アール  
サッポロホールディングス株式会社  
佐藤製薬株式会社  
三共株式会社  
産経新聞社  
サントリー株式会社  
株式会社ジェイアール東日本企画  
ジェイティービー印刷株式会社  
株式会社実業之日本社  
清水建設株式会社  
株式会社写真弘社  
シャネル株式会社  
株式会社集英社  
株式会社主婦と生活社  
瞬報社写真印刷株式会社  
株式会社小学館  
松竹株式会社  
信越化学工業株式会社  
株式会社新潮社  
株式会社スタッフサービス・ホールディングス  
住友化学株式会社  
株式会社生活の友社  
セイコー株式会社  
株式会社絶対空間  
セントラル警備保障株式会社  
全日本空輸株式会社  
ソニー株式会社  
第一建築サービス株式会社  
大成建設株式会社  
大日本印刷株式会社  
株式会社竹中工務店  
株式会社タムロン
- 株式会社丹青社  
中外製薬株式会社  
株式会社テー・オー・ダブリュー  
株式会社テレビ朝日  
株式会社テレビ東京  
電源開発株式会社  
株式会社電通  
東亜建設工業株式会社  
東海旅客鉄道株式会社  
東京ガス株式会社  
東京急行電鉄株式会社  
東京工芸大学  
東京新聞・中日新聞社  
株式会社東京スタデオ  
東京総合写真専門学校  
東京テアトル株式会社  
株式会社東京ドーム  
株式会社東京放送  
株式会社東芝  
東宝株式会社  
株式会社東北新社  
株式会社徳間書店  
図書印刷株式会社  
戸田建設株式会社  
トヨタ自動車株式会社  
株式会社ニコン  
日外アソシエーツ株式会社  
日産自動車株式会社  
日本オラル株式会社  
日本経済新聞社  
日本興亜損害保険株式会社  
社団法人日本広告写真家協会  
社団法人日本写真家協会  
日本写真芸術専門学校  
日本写真作家協会  
社団法人日本写真文化協会  
日本大学芸術学部  
日本たばこ産業株式会社  
日本テレビ放送網株式会社  
日本ハム株式会社
- 日本ビューレット・バックカード株式会社  
日本ビルサービス株式会社  
日本油脂株式会社  
株式会社博報堂  
株式会社バンダイ  
びあ株式会社  
東日本旅客鉄道株式会社  
株式会社ファーストリテイリング  
株式会社ファンケル  
富国生命保険相互会社  
富士写真フイルム株式会社  
富士重工業株式会社(スバル)  
富士ゼロックス株式会社  
株式会社フジテレビジョン  
株式会社ブリヂストン  
株式会社プリンスホテル  
株式会社フレームマン  
株式会社文藝春秋  
株式会社ベネッセコーポレーション  
ベンタックス株式会社  
株式会社ホテルオークラ  
株式会社堀内カラー  
本田技研工業株式会社  
毎日新聞社  
株式会社マガジンハウス  
松下電器産業株式会社  
丸善株式会社  
三井倉庫株式会社  
武蔵大学  
森ビル株式会社  
モルガン・スタンレー証券会社  
モンブラン ジャパン株式会社  
ヤマトロジスティクス株式会社  
UFJニコス株式会社  
ユニリーバ・ジャパン株式会社  
横河電機株式会社  
読売新聞社  
ライオン株式会社  
株式会社ワコール  
(平成17年10月現在・五十音順)

友の会  
Supporter

年会費	
個人会員	2,000円
家族会員同伴者1名まで	3,000円
シルバー会員(65歳以上の方)	1,000円

○受付は当館1階チケットカウンター横の「友の会カウンター」のみとなっております。  
○会員証の有効期限は、翌年の同月末日までです。  
※詳細は当美術館までお問い合わせください。  
TEL:03-3280-0099

東京都写真美術館では、随時新規会員の募集をしています。展覧会のご招待・割引、上映映画の割引、写真美術館ニュースeyesの送付をはじめ、たくさんの特典をご用意している他、関連施設での割引もごぞいます。開館時間中(10:00~18:00)に当館1階チケットカウンター横「友の会カウンター」にてご入会いただけます。皆さまのご入会を心よりお待ちしております。

友の会特典	特典内容
収蔵展・映像展	<b>無料</b> ※会期中は何度でもご覧いただけます ※家族会員の方は、同伴者1名まで無料
共催展・企画展	<b>割引</b> ※御利用いただけない場合もございます
ミュージアムショップ	<b>5%引き</b> ※一部商品は除きます
カフェ	<b>ブレンドコーヒー、ダーズリン紅茶を200円引き</b> ※詳細はお尋ねください
その他	○写真NEWS「eyes」送付 ○1階ホール(実験劇場)の割引 ○ナディフ本店(表参道)で輸入商品1,000円以上のお買上につき5%割引(除外品あり) ○ロス渋谷店で1,000円以上のお買上につき5%割引(洋書・洋雑誌)など